

受講番号 19067 学校名 介良中学校 氏名 宮崎 光一

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 17名
科目名 2年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 New Horizon English Course Book2

クラスの様子・特徴

少人数学級3クラス17名。習熟度別ではなく、分割授業のため学力や意欲には少人数クラスでもかなり個人差がある。

問題の確定

誠実に授業に取り組むが定着が遅れがちな生徒の、語彙数の増加を基礎学力の定着と定期テストでの得点アップに結びつける。

予備調査

A 授業の観察

1年では授業に意欲的に参加できていなかった生徒でも、少人数クラスではほとんどが改善されている。大勢の中では目立たない生徒もしっかりと発言ができています。一斉授業で学習するよりも全体的に学習意欲が高まっている。

B 生徒による授業評価

二者択一で聞かれると英語は好きではないとほぼ全員が答えた。その反面、授業で期待することは定期テストでの得点をあげることをあげた生徒が9割程度と最も多く、記述形式の部分ではゲームや音楽を使って楽しく学習したいと書いた生徒が複数名いた。

C 学力データ

1年生で既習の6文字以下の必修語の書き取りテストでは、約3分の2の生徒が3割未満の正解率であった。定期テストの結果では、20点台から90点台まで広く分布している。

リサーチ・クエスト

英語がかなり苦手であるが、授業に真面目に取り組もうとする生徒が基礎学力を身につけ、定期テストでの得点を伸ばすには、どのような指導方法が有効か。

仮説・実践・検証

仮説1

ゲーム形式の練習をのぞむ生徒が多いので、ビンゴゲームで単語を覚える活動をくり返し行うことにより、書く回数、聞く回数、目にする回数が増え、基本的な語彙の量が増えるであろう。

実践1

授業の最初にあらかじめ渡しておいた単語のリストを利用して、ビンゴゲームを行う。飽きてこないように出題の仕方に変化を持たせる。学習委員会で取り組むクラス対抗の単語クρασマッチの取り組みともだぶらせて、学習意欲が落ちないようにする。

検証1

個々の生徒の興味を引きつけるには十分な取り組みであった。ほとんどの生徒が意欲的に取り組もうとする姿勢が見られた。1回当たりに要する時間が長すぎて、毎時間行うことはできなかった。実際に書ける語彙数が増したかについてはテストの結果から考えても個人によって差があり、今後内容の工夫が必要である。

仮説2

以前から取り組んでいた、馴染みやすい曲やヒット曲を授業の最初に紹介し聞かせる取り組みは、多くの生徒に好評で授業に取り入れてもらいたいという希望が多い。歌詞の中に出てくる文法事項や重要語句を利用すれば、より強い記憶として頭の中に残り、覚えることができるようになるのではないか。

実践2

授業の最初に、その時に学習している文法事項や重要語句が含まれている曲をピックアップして流し、書き取りの問題にしたり、重要表現にアンダーラインをさせて、曲に合わせて口ずさんで、既習の文法事項や新出語句を探させたりする。

検証2

ビンゴゲームと同様に生徒からの要望も強く、興味や意欲付けには十分な取り組みであった。しかし、毎時間フルコーラス流していると他の活動に時間を取ることができなくなり、充分定着させるほど1つの曲に回数を重ねることもできなかった。重要語句や文法事項の定着には、2回目以降は必要な部分だけ編集してくり返し利用するなどの工夫が必要だ。

仮説3

単語のビンゴゲームをマンネリ化させないために、定期的にビンゴゲームで使用したリストの語の書き取りテストなどを行う。語彙が増えたことを実感させることにより、さらに学習意欲を引き出すことができるであろう。

実践3

定期的に単語の書き取りテストを単語リストの中から行う。同じ語であっても、発音から書き取る、意味が分かる、意味を聞いて英語になおすなど、パターンを変えて何度か出題し定着を図る。語彙が増えていく軌跡が実感できるような記録シートを準備する。

検証3

単語ビンゴゲームなど練習段階での十分な取り組みができていなかったため、テストの回数もあまりこなすことができず、覚えている語彙の増加を実感できる取り組みにはならなかった。単語クρασマッチの取り組みと合わせることにより、定期テストへの意識付けには役立った生徒もいた。

研究の成果

個々の生徒の興味をひきつけるのには十分な効果があった。ほとんどの生徒が授業の中では意欲的に取り組もうとする姿勢が見られた。しかし、元々英語学習に対する関心が低い生徒は、目新しさがなくなってくると単純な作業でもなおざりになっていったので、さらに工夫を重ねる必要がある。今回の場合は、中身はほとんど教師主導であるが、学年全体で学習委員会が取り組んだ単語クρασマッチが動機付けとして役に立ち、学習意欲をある程度維持することができた部分があった。生徒によってずいぶん個人差はあるのだが、楽しみながら努力できたと感じた生徒が半分程度はいた。

今後の授業改善の課題

回数をこなすことが十分でなかったため、学力の定着という点では弱かった。短時間で有効な取り組みを行えるように工夫をすることと、これからの小さな取り組みをストックしていつまでもつなぎ合わせていくことが必要だと思う。スローラーのクラスでは時間の確保が難しい部分があるので、よりいっそう短時間で継続して取り組めるやり方への改善が必要である。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 088-860-0043